

このリストは、図書館の職員が、中学生のみなさんに読んでほしい本を選んだものです。



Let's Read!

ヤング・アダルト

品川図書館	北品川 2 - 3 2 - 3	3471-4667
二葉図書館	二葉 1 - 4 - 2 5	3782-2036
荏原図書館	中延 1 - 9 - 1 5	3784-2557
南大井図書館	南大井 3 - 7 - 1 3	3761-6780
源氏前図書館	中延 4 - 1 4 - 1 7	3781-6273
ゆたか図書館	豊町 1 - 1 7 - 7	3785-6677
大井図書館	大井 5 - 1 9 - 1 4	3777-7151
図書館サービスコーナー（五反田）		3492-2131
	西五反田 7 - 2 2 - 1 7 TOCビル地下1階	
	五反田図書館は、平成20年7月より約2年間休館のため、上記の臨時窓口を開設しています。	
大崎図書館	大崎 2 - 4 - 8	3495-0660
八潮図書館	八潮 5 - 1 0 - 2 7	3799-1414

休館日、開館時間などは、各図書館におたずねください。



「アヴァロン」
メグ・キャボット 作
代田 亜香子 訳
理論社

品川区立図書館

「ローザ」

ニッキ・ジョヴァンニ 文
ブライアン・コリアー 絵
さくま ゆみこ 訳 光村教育図書



アラバマ州モンゴメリーでのバス・ボイコット事件は、誠実で静かなローザ・パークスの勇気ある「ノー」から始まった。

1955年12月1日、ローザは仕事を終えバスに乗った。

この時代、バスの前は白人、後ろは黒人と席が決まっていた。ただ、中間の席はどちらでもよかったはずだった……。

「ヒトラーのはじめたゲーム」

アンドレア・ウォーレン 著
林田 康一 訳 あすなろ書房

ポーランドに住むジャックは、12歳になるまで家族にかこまれて、なに不自由なく暮らしていた。

それがある日突然、ヒトラーによって奪われた。

収容所での想像を超える過酷な生活を、ヒトラーとのゲームと思い、それに勝つことを信念に生き抜いたジャック少年の記録。



「エーディト、ここなら安全よ」

ユダヤ人迫害を生きのびた少女の物語」
キャシー・ケイサー 著 石岡 史子 訳 ポプラ社



エーディトがやっとの思いで逃げて来た南フランスにも、ナチス兵がやって来て、パパは連れていかれてしまった。

そんなエーディトを暖かくむかえてくれたのは、モアサックの町の人々。

ユダヤ人迫害の嵐が吹き荒れた時代のヨーロッパを舞台に、懸命に生きたユダヤ人少女エーディトをかくまい、命をかけて守った人々の物語。

「人はなぜ立ったのか？ アイアイが教えてくれた人類の謎」

島 泰三 著 学習研究社

ふしぎな生き物がいっぱいいるマダガスガルの無人島。そこにはアイアイという特別なサルがいる。

アイアイは丸いおメめに、長いシッポだけでなく、ひらひらの耳、伸び続ける歯、細く長い中指など、いくつかの動物の寄せ集めの不思議なサルだ。

未だ解明されていない、「なぜヒトは立ったのか？」の謎を解く旅に出かけてみよう。



「ビッグTと呼んでくれ」

K.L.ゴーイング 作
浅尾 敦則 訳
徳間書店

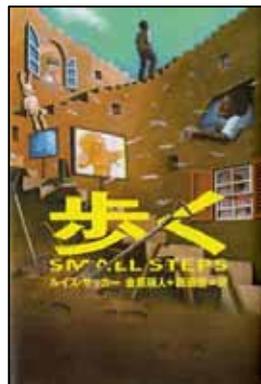


「ビッグ T、お前はすごいドラマーになる。」デブでさえない高校生のトロイは、伝説の天才 панк ギタリスト、カートからバンドに誘われる。音楽をとおして、トロイとカートは、真の友情をはぐくみ、家族との絆を取り戻していく。

「歩く」

ルイス・サッカー 作
金原 瑞人・西田 登 訳
講談社

高校を卒業する・仕事を見つける・貯金をする・けんかの引き金になりそうなことはしない・アームピットというあだ名とは、おさらばする。グリーン・レイク少年矯正キャンプをでて、新たな生活をはじめたアームピット。そこにキャンプでの仲間、X・レイ（X線）が現れ、うまい話をもちかけてきた。



「アヴァロン 恋の 伝説学園 へようこそ！」

メグ・キャボット 作
代田 亜香子 訳
理論社

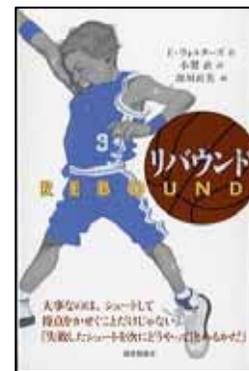


アヴァロン校に転入する事になったエレインは、引っ越しした町の公園にある森の中の深い谷に立っている その人を見た。『アーサー王伝説』になぞられた恋の伝説が今始まる。ってそんな事あり？！

「リバウンド」

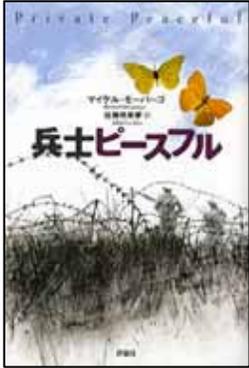
E・ウォルターズ 作
小梨 直 訳 深川 直美 画
福音館書店

うしろから押されて振り返ったショーンの目に飛び込んできたのは 車いすに乗ったデーヴィッドだった。ばかみたいにつっ立ってるな、そう言われカッとして拳を握ったショーンだが次の瞬間、殴られていたのは自分の方だった。



「兵士ピースフル」

マイケル・モーバーゴ 著
佐藤 見果夢 訳 評論社



いつでも一緒だった。ぼくらは何でも分かち合ってきた。女性を愛することも、そして戦場へ行くことも…。

兄のチャーリーは、ぼくの最高の親友。ぼくらは歌う。大好きな「オレンジとレモン」の歌を…最後の時まで…。

脱走・臆病行為は銃殺刑。2人の兵士ピースフルが選んだ、それぞれの道とは…。

「サクランボたちの幸せの丘」

アストリッド・リンドグレーン 作
石井 登志子 訳 徳間書店



サクランボというあだ名の、バーブロとシャスティンは、16歳の双子の女の子。父さんの故郷で、自然豊かな田舎での農場暮らしをすることになりました。

初めての農作業を手伝いながら、近所の仲間たちとハイキングやパーティーに行ったり、夏至祭りを楽しんだり。そして、好きな人もできるのですが…。

「ぼくの父さんは、自殺した。 - その一言を語る今 - 」

今西 乃子 著
そうえん社



誰にも言えなかった。何て思われるのか、怖くて言えなかった。中学二年のあの日から、ずっと言えなかった事実。「ぼくの父親は、自殺した」という事実を。

初めての告白を聞いてくれた仲間の顔は優しくかった。受け入れられたと、初めて思えた高校一年の夏。

それから、ぼくは動き出した。自殺をなくす社会を目指して。

「リボン」

草野 たき 作
ポプラ社



「リボン下さい」亜樹が言うと、「いいよ、無理しなくて」と池橋先輩が言った。

3年生になった亜樹には、部活や家族、友だち、進路と色々な悩みが生まれていた。そんな時、生き生きと高校生活を送っている池橋先輩に再会。亜樹は思う。自分の心に素直に、少しずつでいいから私は変わっていこう、と。

そして卒業式の日、亜樹は後輩に言われる。「リボン下さい」と。